

令和5年度全国学力・学習状況調査結果の分析

豊後大野市教育委員会

市としての目標値・・・・平均正答率で全国平均を上回る

【結果の概要】

《小学校》

- 全国学力・学習状況調査においては、国語・算数において目標値である全国平均正答率を上回った。
- 授業改善が進み、問題解決的な学習展開も進みつつあると考えられる。

《中学校》

- 全ての教科において、全国平均値を上回ることができなかった。
- 全国と比較すると、数学科においては8ポイント、英語では5.6ポイントと差が大きい。

《同一児童生徒》

- 中学校において、全ての教科において力を伸ばしきれていない状況がうかがえる。
- 学年集団の持つ課題の明確化が必要である。

《新大分スタンダードに関して》

- 問題解決的な展開の授業が取り組まれるようになってきている。
- 自分の考えを述べたり、話し合ったりする場の設定など、「思考力・判断力・表現力」を身につけるような意識や工夫がされるようになってきている。

【各教科の概要】

《小学校》 観点ごとの全国平均正答率と市平均正答率

○国語

観点	市正答率	全国正答率
話すこと・聞くこと	75.8	72.6
書くこと	24.1	26.7
読むこと	69.6	71.2
言葉の特徴や使い方に関する事項	73.3	71.2
我が国の言語文化に関する事項	62.0	63.4

●正答率が全国平均を下回っている問題 (6/14)

- ・ 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる
- ・ 送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる
- ・ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる
- ・ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる
- ・ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる
- ・ 日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる

《小学校》 観点ごとの全国平均正答率と市平均正答率

○算数

観点	市正答率	全国正答率
数と計算	69.4	67.3
図形	51.3	48.2
測定		
変化と関係	72.0	70.9
データの活用	65.7	65.5

●正答率が全国平均を下回っている問題 (4/16)

- ・ 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる
- ・ 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる
- ・ 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる
- ・ 二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる

《中学校》

観点ごとの全国平均正答率と市平均正答率

○国語

観点	市正答率	全国正答率
話すこと・聞くこと	83.4	82.2
書くこと	57.6	63.2
読むこと	64.5	63.7
言葉の特徴や使い方に関する事項	62.1	67.5
情報の扱い方に関する事項	60.1	63.4
我が国の言語文化に関する事項	75.5	74.7

●正答率が全国平均を下回っている問題 (9/15)

- ・目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる
- ・意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる
- ・事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる
- ・文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる
- ・文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる
- ・読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる
- ・文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる
- ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる
- ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる

《中学校》

観点ごとの全国平均正答率と市平均正答率

○数学

観点	市正答率	全国正答率
数と式	56.6	63.0
図形	22.3	33.2
関数	43.3	51.2
データの活用	39.9	48.5

●正答率が全国平均を下回っている問題 (14/15)

- ・自然数の意味を理解しているかどうかをみる
- ・数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる
- ・空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる
- ・反比例の意味を理解しているかどうかをみる

- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる
- ・結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる
- ・四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる
- ・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる
- ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる
- ・事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる
- ・ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる
- ・条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる

※累積度数の意味を理解しているかどうかをみる

《中学校》 観点ごとの全国平均正答率と市平均正答率

○英語

観点	市正答率	全国正答率
聞くこと	50.4	58.4
読むこと	47.5	51.2
話すこと [やり取り]		
話すこと [発表]		
書くこと	16.9	23.4

●正答率が全国平均を下回っている問題 (14/17)

- ・情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる
- ・情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる
- ・情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる
- ・日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる
- ・日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる
- ・社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる
- ・「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる

- ・ 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる
- ・ 文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる
- ・ 社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる
- ・ 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる
- ・ 未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる
- ・ 疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる
- ・ 「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる

※情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる

※日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる

※日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果の分析

豊後大野市教育委員会

1. 2023年度の総括（学力調査結果）

（1）小学校

①対象人数 小学6年生 216名

②結果

- ア. 目標 平均正答率 全国平均以上 国語・算数（クリア）
 - ・目標を達成した。
- イ. 県平均との比較 算数については同率
 - ・県平均を上回ることが望ましい。

（2）中学校

①対象人数 中学3年生（9年生） 203名

②結果

- ア. 目標 平均正答率 全国平均以上 なし
 - ・2022年度についても全国平均以上なし
- イ. 県平均との比較 国語については同率
 - ・県平均を上回ることが望ましい。

（3）全体的総括

- ①小学校において、点数学力については一定の成果が見られ学力の維持がなされている。
- ②中学校では、国語、数学、英語全ての点数アップにつながる指導内容や理解力の向上について見直す必要がある。

2. 今後の取組について

(1) 確かな学力の育成について

2023年度の学力向上の方針は、以下の点を重点に取り組んでいる。

- ・ 学びに向かう集団づくり
- ・ 思考力・判断力・表現力
- ・ 生きて働く知識・技能

① 学びに向かう集団づくり

学級集団（学年集団）で学ぶ環境ができているか、今後点検する必要がある。

4月以降を振り返り、2学期に向けて具体的な取組内容を提示する。

- ア. 発表の仕方やグループ学習のあり方等、授業中の過ごし方について見直す。
- イ. 学びに向かう姿を可視化し、児童生徒に取り組ませる。

② 思考力・判断力・表現力

生活力の基礎となる「思考力・判断力・表現力」が不足していることは、今回の調査についての「活用」の結果で明らかである。活用力の低さは、10年間の課題であり、なかなかクリアできない状況である。

- ア. 日常生活の知識と体験活動の知識、そして学習内容の知識を活用し、課題解決を図っていく。そのような思考回路の多面化（多角化）が習慣化できるように、意図的に学習の中に仕組む。

イ. 自分の考えを相手に伝える場面を多く経験させる。そのため、グループ学習でプレゼンを多く取り入れ、ディベート学習を用い、自己主張をさせる。また、発言の根拠を明確にする習慣を、すべての教科で身につけさせる。

ウ. 夢の実現に向け、主体的に自己実現を図るためには、最低限の点数学力が必要である。そのため、低学力層に対する個別指導の強化が必要であり、高学力層の児童生徒のさらなる増加が望まれる。

③生きて働く知識・技能

<小学校>

○低学力層（正答率30%以下）の割合 （ ）は全国の割合	○高学力層（正答率80%以上）の割合 （ ）は全国の割合
国語 4.7%（7.0）	国語 26.0%（27.1）
算数 6.1%（9.8）	算数 31.0%（30.0）

- ・大分県と比較すると、国語・算数ともに低学力層の割合は低い。
- ・高学力層についても、全国と同等である。
- ・高学力層のさらなる増加のために、発展問題を多く解く必要がある。

<中学校>

○低学力層の割合（正答率30%以下）	○高学力層の割合（正答率80%以上）
国語 7.0%（7.1）	国語 42.4%（46.3）
数学 34.5%（25.0）	数学 12.4%（19.8）
英語 48.2%（36.1）	英語 7.9%（11.8）

(国語)

- ・全国と比較すると、低学力層については同等である。
- ・高学力層のさらなる増加のために、発展問題を多く解く必要がある。

(数学)

- ・低学力層の割合が高い。
- ・高学力層のさらなる増加のために、発展問題を多く解く必要がある。
- ・知識定着のために、基礎的な問題を多く解く必要がある。

(英語)

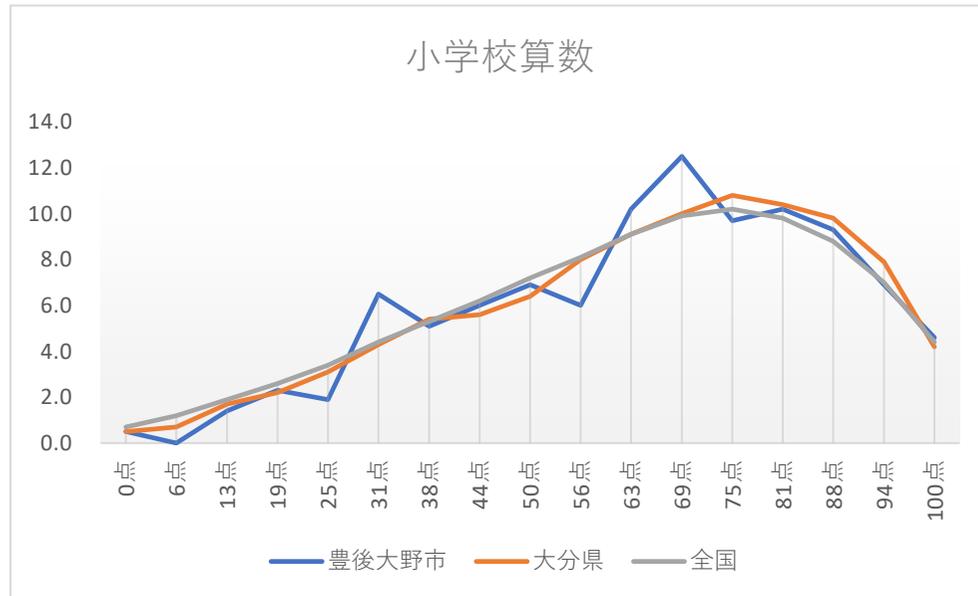
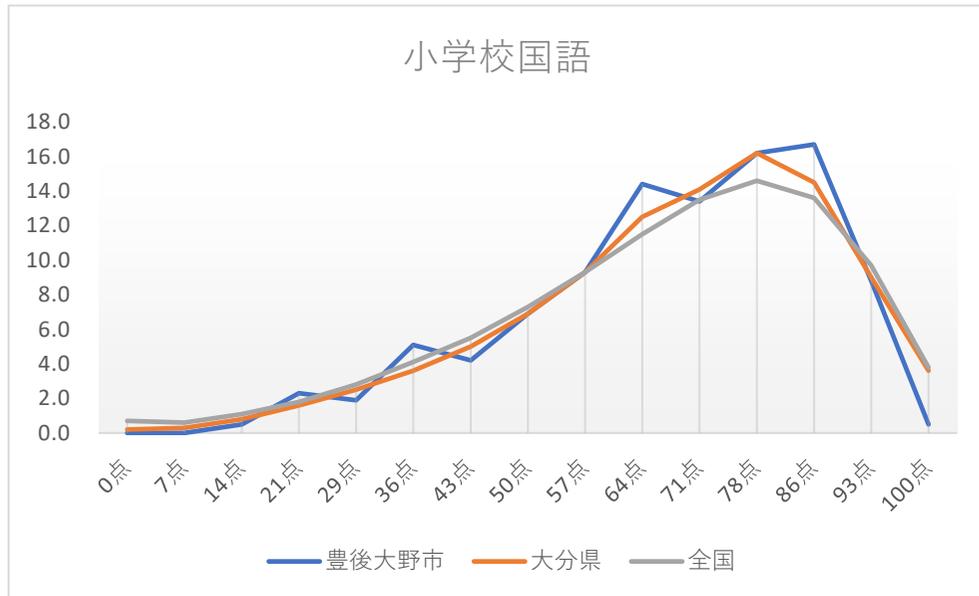
- ・低学力層の割合が特に高い。
- ・高学力層のさらなる増加のために、発展問題を多く解く必要がある。
- ・知識定着のために、基礎的な問題を多く解く必要がある。

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果

令和5年4月18日実施

平均正答率

	国語	算数
豊後大野市	68	64
大分県	69	64
全国	67.2	62.5

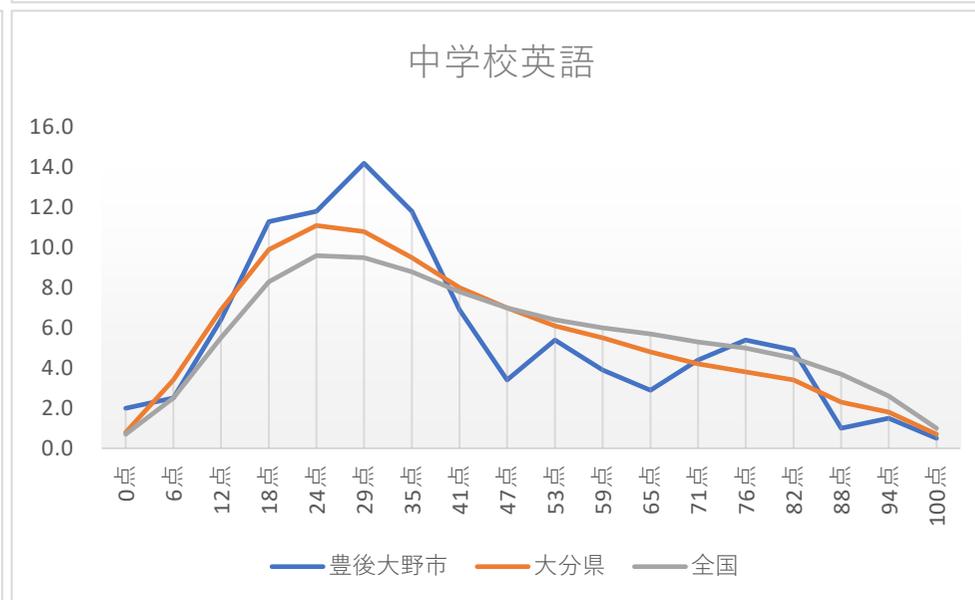
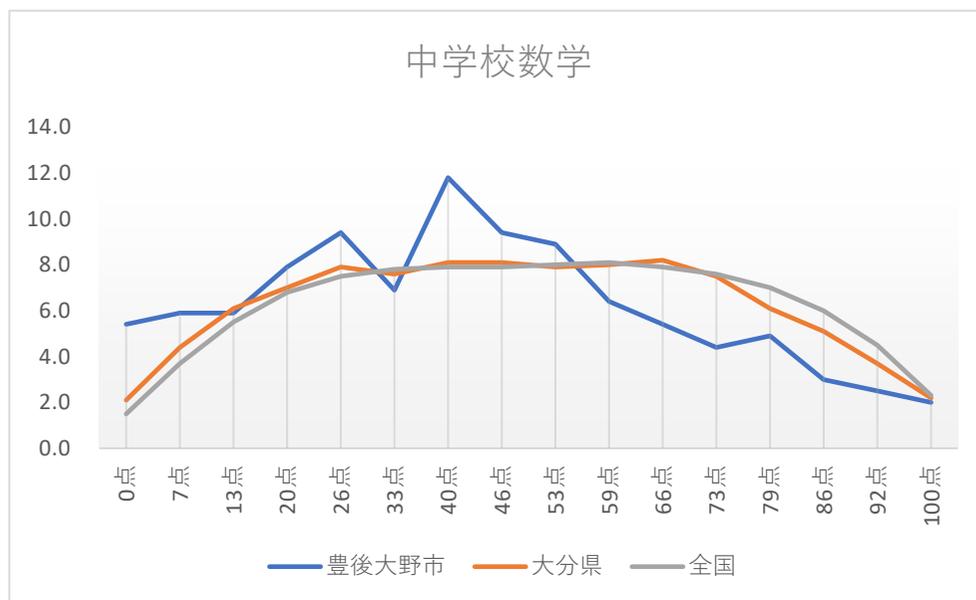
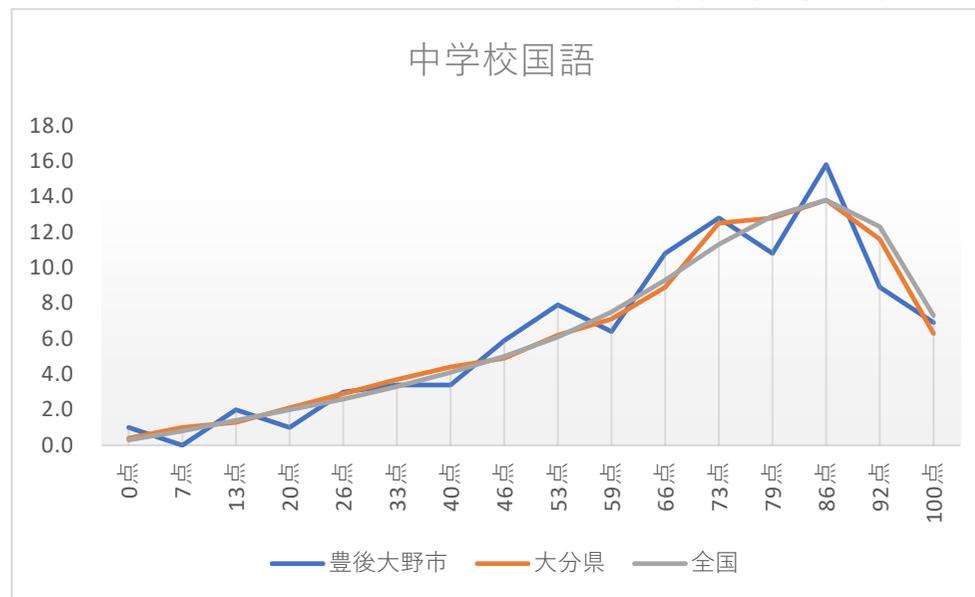


令和5年度 全国学力・学習状況調査結果

令和5年4月18日実施

平均正答率

	国語	算数	英語
豊後大野市	69	43	40
大分県	69	49	41
全国	69.8	51	45.6



【 豊後大野市 】

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について

- ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との問いに対して、本市では83.7%と、県平均（80.1%）全国平均（78.8%）よりも肯定的に回答した児童が多い。
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」との問いに対して、本市では、82.8%と、県平均（81.2%）、全国平均（81.8%）よりも肯定的に回答した児童が多い。
- ・「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」との問いに対して、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した児童は、本市では、82.3%と、県平均（59.7%）、全国平均（62.4%）よりも肯定的に回答した児童が多い。

生徒質問紙

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について

- ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との問いに対して、本市では80.3%と、県平均（79.1%）全国平均（79.2%）よりも肯定的に回答した生徒が多い。
- ・「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」との問いに対して、本市では、84.7%と、県平均（79.5%）、全国平均（79.7%）よりも肯定的に回答した生徒が多い。
- ・「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」との問いに対して、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した生徒は、本市では、86.2%と、県平均（63.5%）、全国平均（61.1%）よりも肯定的に回答した生徒が多い。

2 豊後大野市の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

本市では、主体的・対話的で深い学びについて、「学びに向かう集団づくり」が重要であると考え、以下の点を中心に継続して取り組むことにする。

- ①発表の仕方やグループ学習のあり方等、授業中の過ごし方について見直す。
- ②学びに向かう姿を可視化し、児童生徒に取り組ませる。
- ③日常生活の知識と体験活動の知識、そして学習内容の知識を活用し、課題解決を図っていく。そのような思考回路の多面化（多角化）が習慣化できるよう、意図的に学習の中に仕組む。
- ③自分の考えを相手に伝える場面を多く経験させる。そのため、グループ学習でプレゼンを多く取り入れ、ディベート学習を用い、自己主張をさせる。また、発言の根拠を明確にする習慣を、すべての教科で身につけさせる。

【 豊後大野市 】

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について

・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」との問いに対して、本市では90.9% {県平均(93.9%) 全国平均(88.9%)} 肯定的に回答した学校が9割を超えている。

・「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」との問いに対して、本市では90.9% {県平均(85.8%) 全国平均(83.4%)} と肯定的に回答した学校が9割を超え、県、全国平均値よりも高い。

・「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」との問いに対して、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した学校は、本市では81.8% {県平均(52.2%) 全国平均(45.8%)} と高い。

中学校：学校質問紙

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について

・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」との問いに対して、本市では100% {県平均(89.0%) 全国平均(88.0%)} と全ての中学校が肯定的に回答している。

・「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」との問いに対して、本市では85.7% {県平均(88.1%) 全国平均(86.2%)} と肯定的に回答した学校が、県、全国平均値を下回った。

・「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」との問いに対して、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した学校は、本市では71.4% {県平均(64.4%) 全国平均(44.2%)} と高い。

2 豊後大野市の学校質問紙調査の結果をふまえて

課題解決学習については、小学校・中学校ともに全国平均以上の高い数値であった。また、話し合い活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることに対しても、小学校、中学校ともに高い傾向にあった。今後も、課題解決学習を工夫し、さらに自分の考えを深める機会の保障が必要である。

一人1台タブレットを配布したことにより、自分の考えを積極的に表現したり、友だち同士で調べたり、伝えあったりする学習を効果的に行えるようになった。今後は、より教科の本質に迫り主体的・対話的で深い学びを促すために、ICTを活用した授業の工夫を行う必要である。